

指導のポイント ①

☆ 日本語指導を始める前に・・・

日本語指導では、日本語の「形、意味、用法」をおさえながら指導することが基本ですが、外国にルーツのある子どもにとっては、それらを正しく理解するための「場面設定」が非常に重要です。このテキストでは、子どもたちがイメージしやすいように学校生活を追体験する形で様々な場面を設定しています。学んだ言葉や表現、文型が、どのような場面でどう使われるのかを知り、実生活で“使えた”体験を重ねることで、日本語の根幹が育ちます。

子どもによっては、本冊で扱う場面が合わないことがあるかもしれませんが、その際は適宜、その子の生活に即した場面を設定してもいいでしょう。また指導する中で、形、意味、用法に迷うことがあったら、この「指導のポイント」だけでなく、日本語教育向けの文法書などを手に取り、確認してください。

◎Ⅰ 合目（サバイバル日本語 登校①～帰りの会 全 23 ページ）

<目標> 日本の学校生活の一日を知り、場面に応じた表現が聞いてわかるようになる。少しずつ日本語に慣れて話してみたい気持ちになる。

<先生方へ>

来日して間もない子どもたちが初めて触れる日本語が「サバイバル日本語」です。生活する上で最低限必要な日本語です。以下、4つの観点から、子どもにとって緊急性の高いものを優先的に教えましょう。

A)健康で衛生的な生活を送るために B)安全な生活を送るために C)周囲の仲間との関係を作るために D)学校の生活を円滑に送るために

<指導のポイント>

絵を見ながら場面を理解し、指導者の発話を真似したり、場面を想定した簡単な会話練習をしましょう。体を動かしながら、日本語のリズムに慣れましょう。日本語を学び始めたばかりの子どもには、日本語でいくら説明しても分かりません。場面をはっきり提示した上で、指導者は声や表情、ジェスチャーで伝えることがポイントです。

サバイバル日本語の習得と同時に、ひらがなも学習します。Ⅰ 合目が終わるころまでに、ひらがなが一通り読めるようになることが望ましいです。

各ページ CanDo（上段）と指導のポイント（下段）

どうこう①	あいさつと天気。人に会ったら元気に挨拶できる。
	目上の人には丁寧な言い方をすることも学びましょう。
どうこう②	危険を察知し「あぶない」と言えたり、危険を回避することができる。
	危険な状況を目にしたり、自分が危険な目に遭った時に、反射的に声に出したり、反応したりできるように何度も練習しましょう。

とうこう③	物事の善悪を判断し、「いい/だめ」と言える。
	様々な状況を設定し、自然に言えるように練習しましょう。
あさのかい ①	先生の簡単な指示を聞いて動ける。
	指示に従って動くなど、言葉と動作を一致させることが大切です。
あさのかい ②	名前を呼ばれたら元気に返事ができる。一人称が分かる。
	名前を呼ばれたら返事をしましょう。 一人称の呼称「ぼく」「わたし」が言えるようにしましょう。
じゅぎょう ①	学習活動で使われる指示表現(動詞)が理解できる。
	学習活動でよく使われる動詞です。まずは「見ます」のように“ます”の形で理解します。
じゅぎょう ②	「わかる」「わからない」を相手に伝えることができる。
	「わかる」「わからない」を相手に伝えることは意思表示の第一歩です。 ここで、数字の読み方を学年に応じて教えましょう。 テキストに出てくる算数の計算問題がわかるか、確認することもできます。
じゅぎょう ③	友だちと物の貸し借りができ、お礼も言える。基本的な文具名を知る。丁寧な言い方もわかる。
	実際に友達や先生とやりとりをしてみましょう。相手によって話し方が変わることも気づかせたいポイントです。
じゅぎょう ④	「こ・そ・あ・ど」。位置関係を言葉で言い表せる。
	会話でも文章でも多用される指示代名詞の基本をここでおさえます。距離感を体感させるような練習を工夫しましょう。特に、自分の近くにある場合は「これ」、相手の近くにある場合は「それ」と指し示すことはしっかりおさえたいところです。疑問詞「どれ」も、その後に出てくる「どこ」「どちら」「どんな」「どう」などにつながる大事な概念です。
じゅぎょう ⑤	ものの有無が言える。数が数えられる。
	ものの所在を表す表現は、その後の人の所在「いる、いない」にもつながります。 ものを数えるときに助数詞をつけることも、ここで少し意識できるといいですね。
じゅぎょう ⑥	丁寧な指示を聞いて動ける。
	「～てください」という表現は、これから学ぶ日本語文法の要です。ここでは表現としてしっかり口慣らし耳慣らしをしましょう。
じゅぎょう ⑦	同じか違うか判断して言うことができる。
	間違い探しをしながら「同じ」「違う」を判断し、言えるようにしましょう。ここでは扱いませんが、指導者は「違う」には「間違っている」という意味もあることを頭の片隅に入れておきましょう。
じゅぎょう ⑧	授業中にトイレに行きたくなった時に先生に許可を求めることができる。
	場所を尋ねることができる。 「ここ・そこ・あそこ」は、“場所”を指し示す代名詞、「どこ」は“場所”を尋ねる疑問詞です。「じゅぎょう④」で扱う「こ・そ・あ・ど」の距離感を理解しているか確認した上で、練習しましょう。
やすみじかん ①	遊びの仲間に入れてもらい、友だちと仲良く遊べる。
	場面と言葉を考えて使いましょう。

やすみじかん ②	友だちとのトラブルに対処したり、悪いことをした時に謝ることができる。
	「やめて」と嫌なことは相手にしっかり伝えることが大切です。 自分に非があるときは、「ごめんなさい」「すみません」などと言えるようにしましょう。
じゅぎょう たいいく①	自分ができること、できないことを相手に伝えることができる。 できること、できないことを伝えられるように様々な場面で練習しましょう。
じゅぎょう たいいく②	けがをした時や具合が悪いことを相手に伝えることができる。保健室に行ける。 けがをしたとき、体調が悪い時など周りの人に正しく伝えられることが大切です。「～が痛い」 が言えるように練習しましょう。次のページの体の部位名称も活用してください。
じゅぎょう たいいく③	体の部位名称を知る。 「手」は知っていても「指」が言えない、「目」は言えても「まつ毛」を知らないといったように、細 部名称を知らない子どもは多いです。これに限らず、生活に関する様々な事物・事柄は、折にふ れ指導者が意識して教えましょう。
きゅうしゅく ①	食事のあいさつやマナー、服装を知ることができる。 「給食」がない国は多いです。言葉だけでなく、マナーも教えましょう。
きゅうしゅく ②	食べ物の好き嫌いが言える。味覚を説明できる。 「好き」「嫌い」が言える＝自分の意思を伝えることにつながります。味覚の表現は今後学ぶ 「形容詞」の学習にもつながります。食べ物だけでなく、動物や遊びの種類など、様々なことにつ いて話しましょう。
そうじ ①	日本の学校文化「清掃」、清掃道具を知る。物の所有者を尋ねることができる。 “学校で子どもが「清掃」する”というのは日本独特の学校文化のひとつです。掃除道具を手 に取って使い方も教えましょう。また所有を表す「の」も教えましょう。
	掃除の仕方がわかる。 そうじ①同様、動作と言葉を結び付けながら覚えましょう。
かえりのかい	下校の挨拶が言える。
	場面や相手によって「さようなら」「バイバイ」と表現が変わるということに着目しましょう。